

# 公孫樹 (いちよう) 9月号

～学べ 鍛えろ 夢を持て～

## 始業式講話より (抜粋) ～水になったワインの話～

昔むかし、ヨーロッパのある村のお話です。

何十年もその村で先生をやった方が、先生を辞めて自分の故郷に帰ることになりました。村人たちは、大人も子どもも、とてもお世話になった方なので、何か贈り物をしようと話し合いました。ところが、その村は大変貧しい村で、先生にお金をかけて贈り物をするような余裕はどの家にもありません。

そこで村人たちは、村の名産であるぶどう酒(ワイン)を贈ろうと決めたのでした。村の広場の真ん中には、大きな樽(たる)が置かれました。それぞれの家庭では、自分の家で作った白ワインを少しずつ持ち寄って樽に入れます。多くの方々が参加し、樽はワインで一杯になり、それを先生に贈りました。先生は村人たちからの思いがけない贈り物に大変喜び、感謝の言葉を大勢の人々に告げ、村人たちや子どもたちと別れるのはつらいけれど、大好きなワインをもらったので、故郷に帰っても楽しみでした。



故郷に帰って二、三日してから先生は、「さて、いただいたワインを味わってみることとするか。」と樽からワインをグラスに注ぎました。しかしそのワインを口にした途端、先生の表情が、「期待と喜び」から「疑惑と驚き」へと、みるみる変わりました。

なぜかという、グラスに注がれた液体は、どう味わっても「水」だったのでした。



どんなお話だったか、理解できましたか？

村人たちは、「自分一人ぐらい、ワインでなく、水を入れたところで、大量のワインの中の少しの水だから、樽の中の味が変わる訳はない。水を入れておけ。」と、考えたのでしょうね。これが本当にたった一人だけの行動だったら、おそらく中の液体は「ワイン」だったでしょう。しかし残念なことに、全員がそのように考えてしまったのです。つまり、樽に注がれていたのは、初めからワインではなく、水だったのでした。一人、二人ぐらいはワインを入れた人もいたかもしれませんが...

「自分一人ぐらい」という考え方を全員が持ったとしたら、どんなことになってしまうのかを皮肉った話として、伝え継がれているようです。

私たちの生活で考えてみましょう。「自分一人ぐらい」の後ろには「わかりっこない・バレっこない。」という言葉が続きます。例えば体育祭の綱引き。「力を入れているようなフリをして、楽をしよう。」と思う人が多いクラスは、あっという間に負けてしまいます。「自分一人ぐらい」という考え方は、集団で生活したり、複数の人が力を合わせて何かをやることにする時に、大変にまずい考え方です。「自分一人ぐらい」の反対の位置にある言葉は、「自分がやらなきゃ(誰がやる)」でしょうか。

「自分がやらねば」と一人一人が考えれば大きな力になります。2学期には、体育祭、合唱コンクールなど、クラスで団結して取り組まなくてはいけない行事がたくさんあります。皆さんで団結して協力し、そして、一人一人が「自分がやらねば」と言う気持ちを持って取り組んでいって欲しいと思います。

## お世話になりました。資源回収・PTA親子除草



8月4日の資源回収、8月18日のPTA親子除草では大変にお世話になりました。

資源回収ではお陰さまで、95,800円の収益をあげることができました。このお金は、生徒の教育活動資金として大切に活用させていただきます。



親子除草では、始める前はあたり一面の草原でしたが、学校がすっかりきれいになりました。

なお、次のPTA厚生部除草は9月15日(土)、第2回資源回収は12月15日(土)に行いますので、よろしく願いいたします。

## 真夏の夜の祭典～だんべ踊り大賞！～

7月29日(日) 第25回市民祭行田浮き城まつりが行われました。

行田中学校は生徒・保護者・職員総勢170名の「行中連」を組み、「だんべ踊り」に参加しました。白と緑のうちわを振って、踊りの中にジャンプを交えて踊る「行中だんべ」で45分間全力で踊りきりました。その結果、3年ぶり2度目の「だんべ踊り大賞」を受賞しました。沿道の人たちからも「行中がんばれ!」と温かい声援を送っていただき、真夏の夜の祭典を大いに楽しむことができました。最後は恒例の「行田締め」。お互いの健闘をたたえました。

